

息を合わせ 梅花流奉詠

藤岡

曹洞宗宗務所(渡辺啓司所長)主催の「第58回梅花流県奉詠大会」が、藤岡市のみかぼみらい館で開かれた。約500人の梅花講員が日ごろ練習を重ねている御詠歌を大舞台上で披露した。



優しいメロディーを唱える講員

わけて鈴や鉦を鳴らしながら2曲ずつ優しく歌い上げた。後半は本県出身の東京芸術大学卒業生でつくる「ムジカ・コンカドーロ」がクラシックを奏でた。開会式では、東日本大震災と、今年30年を迎えた日航機墜落事故の犠牲者への追善供養も行った。

息を合わせ梅花流奉詠 藤岡

曹洞宗宗務所(渡辺啓司所長)主催の「第58回梅花流県奉詠大会」が藤岡市のみかぼみらい館で開かれた。約500人の梅花講員が日ごろ練習を重ねている御詠歌を大舞台上で披露した。

御詠歌は仏を敬う気持ちを、メロディーを付けて唱えるもの。梅花流は曹洞宗の御詠歌で、鉦員は同宗の高祖、道元禅師らの教えを学び、実践するため活動している。

県内51寺院の講員が8組に分かれ、息を合わせて鈴や鉦を鳴らしながら2曲ずつ優しく歌い上げた。後半は本県出身の東京芸術大学卒業生でつくる「ムジカ・コンカドーロ」がクラシックを奏でた。

開会式では、東日本大震災と、今年30年を迎えた日航機墜落事故の犠牲者への追善供養も行った。